

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目	地学
----	----

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問数と出題形式は例年通りであり、天文分野、大気海洋を含む地球物理分野からの出題量が多い。
論述量、計算量は例年通り多い。

〈特記事項・トピックス〉

〈合格への学習対策〉

主に基礎を重視した問題で構成されているから、それに従って、高校の課程で履修する基本的な事柄を学習すればよいであろう。特に論述については、日々の練習が必要である。
ただし、高得点を望むならば、日頃からいろいろな自然現象に関心を持ち、理科の他科目や数学を含め、思考力と洞察力を高めておく必要があろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問	記述 論述 計算 選択	地学 基礎 ・ 地学	天文分野, 宇宙膨張, 太陽系の天体	問1は、宇宙の膨張に関連して、基本的な内容が出題された。リード文の宇宙原理については、なじみのない受験生もいたであろう。 問2は、重力と天体の運動を扱った問題である。引用されている小説は、青少年読書感想文全国コンクールの2024年の課題図書であり、2024年にドラマ化もされている。	標準
第2問	記述 論述 計算	地学 基礎 ・ 地学	大気海洋分野, 地球のエネルギー収支 と大気の大循環, 東北東方沖の暖水渦	問1は雲にかかわる諸現象を幅広く問うた問題である。 問2は、暖水渦に関する設問で、(2)は考える根拠を見出しにくく、(5)は春と秋を区別するのは難しかったであろう。また、(3)の近似計算も苦勞した受験生がいたであろう。	標準
第3問	記述 論述 計算 選択	地学 基礎 ・ 地学	固体地球分野, 地殻の諸現象 地質地史分野, 堆積物と堆積岩	問1は、オーソドックスな内容ながら、受験生には目新しい手法が含まれていた。 問2は、図を丁寧に読み取る設問であった。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。